

会議録

会議の名称	令和元年度 第2回 富士見市総合計画審議会
開催日時	令和元年10月4日 午後7時00分~午後8時40分
開催場所	富士見市役所 市長公室
出席者	今井会長、岩田副会長、久米原委員、小林委員、中委員、仲田委員、三上委員、山本委員、横山委員、吉原委員、渡辺委員
欠席者	寺田委員
傍聴者人数	1人

会議内容

- 1 開会 政策企画課長
- 2 あいさつ 会長
- 3 議事

- ・基本構想骨子について

事務局：資料1～3に基づき説明

委員：キャッチコピーは格好良いが、具体的にどういことをやるのかをある程度示さなければならない。（資料1のp6）交通・防犯、魅力、自然・緑・農業、産業、歴史・文化、その他、これらは金のかかるものが多いが、基本構想に示されていない。

もう1つ、コミュニティ・交流についてだが、次の世代のなり手がおらず、団塊の世代までで終わっている。次の世代のなり手が出てこないのは、社会問題になっている引きこもり高齢者等いろいろな問題が絡んでいる。

子育てについても、離婚したら子どもは夫婦どちらかが面倒をみることになるが、そうすると当然経済的に苦しくなる。子ども未来応援センターだけで面倒をみようとしてもみきれない。夕食はパン1個だとか、まともな食事をしていない。箸の使い方等もきちんとできていない。そんな実情がある中で、いくら良いまちにしようといつても、財政的なランニングコストを抜きにして考えることはできない。

挨拶ができない子どもというのは家庭に問題があるので、家庭から直していかない

といけない。家庭にどうやって切り込んでいくのか、そこは市を挙げて、意識改善していかないといけない。

高齢者の引きこもり等の問題も出てくると思うが、それを改善していかないと安心・安全なまちづくりはできない。

確かに富士見市は大きな犯罪はないが、コミュニティが大事である。次の55～60歳くらいの人にバトンタッチしたいのだが、何かやるとしてもボランティアになってしまう仕組みを何とかしなければならない。若い世代はまだ働いて暮らすのが精いっぱいという感じである。普段引きこもって出てこない人たちに出てきてもらうようにしないと、コミュニティづくりはなかなか難しい。近所でも挨拶をしないような時代である。それをなくすような村社会にするには、どうしたらよいのか。それを話し合っ、アイデアを出し合っ、いかないといけない。

基本構想は立派だが、蓋を開けてみたら市民が誰もついてこなかったというようなものになってしまうと、何のための審議会なのかとなる。

事務局：基本構想については、これまでは10年間の基本構想ということである程度先が見える期間で取り組んでいたものを、今回はあえて20年という長さにしている。どういうものが究極の理想なのかということ掲げるのが基本構想という位置付けである。

声をかけても出てこない、挨拶もしない、そういう子どもたちに対して、20年後、それが変わっていくためにどうアプローチしていくか、そのようなことを考えていくのは、基本計画という形で整備をしていく予定である。

委員：進んでいるものに対応して、夢を持って、この先の未来をどう変えていくのかということがこれからは必要だ。

顔を見ることによって人の心を読んだり、駆け引きしたり、そういうことができなくなっている。社会がそういう方向に進んでいくのであれば、そういう方向で解決できる方法を考えていくのが未来構想ではないか。

未来に対応した、美しい言葉をどうしたら作ることができるか、ということになると思う。

若い世代がこの審議会にも出てくると、また違ってくる。若い人にある程度の意見を託すということも、これからの社会には必要ではないか。

委員：民生委員は改選時期で11月いっぱいまで終わり、次のなり手がいない。欠員が続いている状態である。

この構想のようになれば本当に素晴らしいまちになると思うが、そこまでなかなかついていけなくて、まず目の前の問題、例えば民生委員の欠員を埋めるにはどうしたらよいか、ということを考えている。そういう状況なので、なかなかここまでの未来構想に結びつかない。

未来は未来で、構想は構想なのだが、実際に活動している私たちにしてみれば、なかなかここまで到達しない。

委員：骨子から、富士見という名称を消してしまえば、どこの話なのだろうかと思う。

コンセプトや基本構想の中には、一見してどこでも同じというものより、富士見市独特の、オリジナルでユニークなものを入れたほうがよいのではないか。だからといって何があるのかというところだが。せつかく20年という長い期間で考えるのであれば、もう少し尖っていてもよいかと思う。

委員：今は「知らない人とあまり口を聞くな」ということが言われている。挨拶をしないというのは、そういう教育が影響を及ぼしているのではないか。

委員：教育の中で「知らない人に声を掛けられても口を聞いてはならない」という指導はしばらくあった。そういった中で、市内のPTA連合会の中では、声を掛け合うことによって犯罪の抑制にもつながるので、まず地域の方々が外に出ているときに子どもたちも勝手に声を掛けて下さいと依頼はしていた。ただ、学校側には知らない人への挨拶は根強く抵抗感があるので、そこをPTAと学校が一体となって、まず学区内だけでもよいと思うので、そこからでも挨拶くらいはきちんとできるように、しっかりと声掛けはしていこうと常に学校では言っている。これについては早期に解決できるような課題ではないと思う。継続的に、声をかけていきたいと思う。

委員：今のお話は、骨子の中の防犯の部分に関することだと思うが、そういう意見があったときは、具体的にどういう説明をしているのか。

委員：防犯については、声の掛け方に対する抵抗もあると思う。通常、いろいろなところで変な声掛け事例はあるが、そういう人たちは「おはよう」や「こんにちは」から入ってこない。急に、「ちょっとちょっと」とフランクな形で来るので、ある程度きちんとした挨拶のほうが、防犯上の効果になると思う。「おはよう」と言われたら「おはようございます」と返せばよいだけなので、それだけでも地域の活性化も含めて、対応策になると思う。

委員：挨拶の件だが、小学生は挨拶する子もいるが、恥ずかしくて挨拶できない子もいる。中学生になると、元気よく返してくれる。

会長：かなり具体的な話になっているが、本日のテーマはもう少し大きいところにあるのかと思うので、もう一度資料を見ていただいて、何か質問があればお聞きしたい。

委員：未来のことについて、未来都市像「ありたい“まち”の姿」というのが3つあるが、インパクトに欠けている。楽しい・心おだやか・居心地がいい、どれも似たようなものを感じる。そうではなく「高齢者が心おだやかに過ごせるまち」「子育てが安心してできるまち」「家族が休日に遊べるスペースのあるまち」のような未来像にしたほうが具体的でよいと思う。

委員：若い人のことをもっと織り込んでどうか。ワークショップに若い人も多く来ていた。

委員：我々の考えとは違う視点があったと思う。

委員：ああいう若い人たちが20年後を背負って立つわけだから。

委員：ワークショップの話の延長だが、富士見市のアイデンティティ、富士見市の売りとなるものが必要になってくる。例えば子育てがしやすいことや、物価が安いということも売りになると思うが、富士見市の売りとなるものを作っていったほうがよいという話が結構出ていたように思う。（資料1、p6）「魅力」というところに「子どもが帰ってきたくなるまち」とあるが、2代目、3代目の世代が東京に出て働いても、富士見市に帰ってきたいと思うかどうか。やはりアイデンティティや売りとなるものが必要になってくる。駅周辺に観光関連のものを作るとかいうが、本当の売りとなるものは何だろうかといつも思っている。私は富士見市出身ではないが、60年も住んでみると、緑が多いのはよいというイメージはある。それを売りとするのならば、それをもっとクローズアップしてはどうか。人口減少という話が出てきたが、魅力があるまちづくりというならば、ベッドタウンはベッドタウンとして、まちとしても魅力があるということで、ここに住んで東京に行くという人たちが増えていけば、人口も増えていくのではないだろうか。大きな構想なので具体的なことはこれからになるのだろうが、前のまちづくりの構想の中でマイナスの部分は何だったのか、それを踏み台にして次のステップを考えるのも必要ではないか。反省の部分はこの構想の中にあるのだろうか。私は前回の計画ですごく良かったなと思ったことは2つある。1つは、当初は反対された防犯カメラが多くなったこと、もう1つは図書館がきれいになったことだ。ららぽーとができたことは、自動車が多くなって、住みづらくなつたようにも思う。今までの10年間の構想の中で、必要なものは何だったのか、反省もしたほうがよい。

委員：私もワークショップの1回目は出席したが、高校生たちも出席していたので、議論をする中で、20年後こうなったらよいというイメージがまとまって、それが試案ということで今回提示された。20年後ということで近い将来ではないが、20年で考えてみると、2市2町の合併協議が行われた頃の市民意識調査で、一番市民が求めているものは総合病院で、その次に道路が狭いことへの改善だったと思う。とにかく、当時は総合病院がなかったので要望が多かったが、ご存知のとおり、イムス富士見がどんどん拡張していき、噂によるともう1期拡張計画があるらしいが、今は2期で大

きな病院になった。つまり20年経つとそれが実現されているので、今後20年経ったときに、今理想としているものがもしかすると実現化されているかもしれないし、あるいは外国人が多く居住するようになるかもしれない。だから、ある程度アバウトなイメージで試案を考え、それぞれ皆様が理想とするものをまとめていったほうが、案としてはよいのではないか。

委員：私は今40歳で20年後は60歳になるので、そのときの富士見市を想像してみたが、ここに書いてあるように、子どもがこのまちに帰ってきてくれるような、そんな富士見市であってほしいと思う。私は南畑出身なので周りは田んぼばかりの自然の中で育ったが、今後それを残すのがよいのか、ベッドタウン富士見市としては住宅が増えたほうがよいのか、皆様はどう思われるのか気になる。

委員：私は20歳くらいのときに一人暮らしで都内に住んでいたことがあるが、富士見市の良さは何だろうかと考えたときに、都心に出やすいということは大きなメリットだと思う。急行は止まらないが準急だと池袋まで26分ぐらいだし、都心にアクセスしやすいのは大きな強みだと思う。私も富士見市に住んでいながら、なかなか富士見市の良さが思いつかないのもどうかと思うが、富士見市の良さを武器として、もう少し尖っていてもよいという意見もあったように、良さを前面に出して、いろいろな人にアピールできる部分があったらよいと思う。

委員：私は48歳でずっと富士見市に住んでいるが、よいところはたくさんあると思う。小さい頃は神社で遊んだり、湧き水のところで遊んだりした。そういうところはまだ富士見市に多く残っていると思うが、知られていない。富士見市のパワースポットが紹介されたが、そのようにメディアが注目する部分もあるので、そういうことをもう少し前面に押し出していけたらよいと思う。また、ワークショップに参加するような人は自分の意見を持っている人たちだと思うが、富士見市の20年後を考えたとき、ここに参加できないような物を言えない人々の声をどうやってみ上げていくかを考えることも大事なのかと思う。

委員：富士見市の独自性という話が結構出てきているので、何か特殊なカリキュラムを組んでみたりすると、「そういう教育があるならば、富士見市で子育てをしたい」ということにつながると思う。私は仕事柄、小学校で6年生に対してお金の話の授業をしたことがあり、そのように普段なかなか習うことができないものを特別なカリキュラムとして行うことで、そういう方向に興味を持つようになったり、日本では投資に対する教育ができていないという話も聞くので、地元の金融機関と連携しながら、そういう教育を独自に取り入れていくことで、お金の大切さを知るとか、他がまだ手をつけていないようなこと、そして実施すれば感謝されるようなことをいち早く取り入れていくことによって、富士見市のオリジナリティが出せるのではないかと。

委員：市民のワークショップのまとめの資料で1番や2番がついているが、これに対して、この先はどうしていくのか、そこまでは考える必要はないのか。こうするためには、どこかの団体がこれに向かって何かをするとか、そういう考えはあるのだろうか。

事務局：その目標に向けて具体的にどう動くかについては、基本計画（5年計画）の中で、年明けから進めていく予定である。例えば、行政としてこういう動きをするので民生委員さんには同じ歩調をとってほしいとか、そのために行政としてもここは一緒にやっていく等の検討は基本計画の中で行っていく。今回の構想に関しては、そこに向かうことがなぜ必要なのか、その「なぜ」の部分を決めているのが基本構想の位置づけになっている。例えば防犯も必要だが、防犯がなぜ必要なのか、それは子どもたちの命を守りたいからであり、子どもたちの命を守ると何があるのか、それは未来につながるからであり、未来も富士見市が明るいままでいられるからである。このように、未来を追いかけていった形が今の基本構想骨子になっているので、現実的でリアルな話については年明けにご相談したい。

事務局：補足だが、総合計画の視点という図（資料1）で説明すると、本日皆様にご協議いただいているのは、この未来の20年後の富士見市はどうあればよいのか、ということである。将来富士見市はどういう姿であるべきなのか、その姿であるためにど

ういうステップがあれば富士見市はそこにたどり着けるのか、その過程を探しているのが基本構想のところだ。委員が言われたとおり、具体的にそうなるためにはどうしたらよいか、どれが近道なのか、そのようなことを探すのが基本計画で、二段構えで考えていく。

本日は、将来どうしたらよいか、富士見市はどのようなまちであればよいか、何を求めているのか、ということの皆様に出していただいた。したがって、本日はワークショップでいただいた意見を素のまま皆様にお示しをし、こういう状況のワークショップだった、こういう意見が出た、それから今皆様からいただいた感想を今度それに積み重ねて、また形を変えようかと思っている。

挨拶が大切、コミュニケーションが必要、次のなり手がいない、次へつなぐという意味では富士見市はとても苦労している、といった貴重な意見をいただいたので、そういうことを加味しながら、今度はまたワークショップに返したり、庁内検討委員会に返したりして、審議会とワークショップと庁内検討委員会とでキャッチボールする。

いろいろなことを含めてどんどん大きくしていき、最後は見栄えが良いようにブラッシュアップしていく、という形で検討していく。今日皆様からいただいた意見を、ワークショップなり事務局なりで整理して、ワークショップではこのような意見が出て、審議会ではこのような意見が出た、それでワークショップの皆様はどのように思われますか、と聞くことでまた世代間交流が生まれる。考え方が違う方と合わせることで化学反応が起きて、また違う意見が出るかもしれない。そういうことの繰り返りで、基本構想、20年後の富士見市はどうあるべきかを探っていきたいと思う。次の審議会のときには、今日出た意見がまた膨らんで、いろいろなところで削ぎ落とされ、また違う形になってここで皆様に披露され、また意見をいただく、そのようなことを積み重ねていくということを考えている。

時間が限られているが、こうなればよいと思っていることや考えていること、具体的なキャッチフレーズがあれば、それを言っていただいてもよい。何でもよいので意見を出していただくことが肝要なので、御協力をお願いしたい。

会長：それでは質疑がなければ終了する。次に、「4 その他」について事務局から説

明をお願いする。

事務局：（説明）（次回の日程は、11月6日に第3回審議会開催予定）

会長：以上で、本日の議事は終了する。

4 閉会